

アメリカの高校生1000名が6・7月に東北被災地でボランティア活動 被災地の高校生・大学生ら1200名も米国へ ～「キズナ強化プロジェクト」～

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、東日本大震災復興支援事業の一環として行われる青少年交流事業「キズナ強化プロジェクト」に関し、日米の青少年交流事業を実施します。今年6月・7月にかけて、合計1000名のアメリカ人高校生が全米各地から、2週間の日程で被災した4県(宮城県・岩手県・福島県・茨城県)を訪問し、ボランティア活動(清掃、植樹等)や市民との交流活動を通じて、復興の様子を体験する他、被災地の日本人高校生も1000名が渡米し、全米各地でホームステイや交流活動に参加しながら、自身の出身地の復興状況について発信します。



また、被災地等の日本人大学生等200名が米国に6ヶ月間滞在し、英語研修と企業・団体でのインターンシップに参加し、復興状況を発信するとともに国際的な視野を育みます。

これらの日米青少年交流を通じ、日本再生に関する米国市民の理解増進や対外発信強化に貢献するとともに、被災地復興を担う次世代の人材、日米交流の担い手育成を図る事業です。詳細はこちら <http://www.jpff.go.jp/cgp/exchange/fukkou/kizuna.html>

1. 米国高校生1000名の短期招へい(14日間)

被災4県(宮城県・岩手県・福島県・茨城県)で復興状況を視察し、ボランティア活動等を行う他、各地で交流活動を行います。2012年6月10日(日)～6月23日(土)、7月1日(日)～7月14日(土)、7月8日(日)～21日(土)の3日程で訪日予定。

2. 日本高校生1000名の米国 短期派遣(15日間)

全米各地の高校での交流やホームステイを通じて、被災地復興の現状等について発信し、米国での理解を増進します。

3. 日本大学生等200名の米国 長期派遣(6ヵ月間)

英語研修と米国の企業・団体等のインターンシップを通じて、被災地復興の現状等について発信し、被災地復興を担う国際的な視野を持った次世代の人材、日米交流の担い手を育成します。〈9月派遣開始予定〉

「キズナ強化プロジェクト」について



東日本大震災の被災地復興支援事業として行われる、アジア・大洋州地域と北米地域との青少年交流事業。「世界に開かれた復興」の促進を目的に、約1年間の間に同地域の高校生・大学生を約1万人(短期9,750名、長期250名)を日本に招き、被災地の青少年1,300名(高校生・短期1,100名、大学生・大学院生・長期200名)を北米に派遣する事業です。青少年交流を通じ、日本再生に関する外国の理解増進及び風評被害に対して効果的な情報発信を行い、東日本大震災の被災地復興に資するため、日本政府(外務省)により進められています。この「キズナ強化プロジェクト」のうち、米国との青少年交流事業については、外務省からの拠出先である日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)から受託し、国際交流基金日米センターが実施します。